2026 スーパー耐久シリーズ Rd.7 Fuji - Race Report

【雨の最終戦は 2 周で終了もデビューシーズンを全戦完走で締めくくる】

メルセデス-AMG の信頼性と全戦完走で刻んだ初年度

■ Introduction

2026 ＥＮＥＯＳ スーパー耐久シリーズ2026Empowered by BRIDGESTONE第7戦（最終戦）『S耐FINAL』が11月14〜15日に富士スピードウェイにおいて行われた。参戦初年度となった2026年シーズンのスーパー耐久シリーズも、いよいよ最終戦を迎えた。これまでエントリーした全戦で完走を果たし、着実に進化を遂げてきたTeam YUKは、デビューイヤーの締めくくりとなる富士スピードウェイでの4時間レースへと臨んだ。

■ Qualifying

13日の専有走行からフリー走行の行われた14日午前までは青空の広がる好天だったが、午後になると雲が増え富士山にも笠雲が掛かり、天候が下り坂であることを告げていた。気温16℃、路面温度19℃の14時15分に公式予選がスタートした。AドライバーとBドライバー、それぞれのベストタイム合算で決勝のスタート順位が決まる。まずジェントルマンドライバーのAドライバー予選では、YAMATATSUが1分47秒842をマークしクラス9番手につけた。続くプロドライバーのBドライバー予選では黒澤がコース外走行のためにベストラップが抹消となったこともあり、1分48秒297でクラス12番手。2人のタイム合算は3分36秒139となり、総合21位クラス11位となった。今回Cドライバー予選は行われなかったが、COLD MAXは朝のフリー走行でコースコンディションの確認を済ませた。

■ The Race

決勝日は、朝から完全なウェットコンディションとなっていた。それでもサポートレースのS耐チャレンジは行われたが、スピン＆クラッシュする車両もあり危険な状態であった。決勝レースを控えた11時25分に各車両がコースインしグリッドウォークが行われたが、徐々に雨量は増していった。

12時30分、セーフティカー先導により4時間の決勝レースがスタート。しかし雨量は一向に減る様子はなく、これでSCランが解け各車がレーシングスピードになれば水煙で視界不良となってしまうような状態であった。スタートから13分が経過しSCラン3周が完了した時点で、雨量増加による悪天候のために赤旗が掲出されレースは中断となり各車両がピットイン。レースは2周を終えた時点で成立となった。

この結果、11位フィニッシュ。残念ながらポイントを獲得することはできなかったが、

エントリーしたレース5戦すべてで完走を果たし、参戦初年度を無事に終えることができた。

■ Team Voice：黒澤 治樹

「こういうレースになりファンの皆さんには申し訳ないのですが、安全を優先した結果です。S 耐はクラスが異なると 100km/h ぐらい速度差がありますから、特に雨のレースになると危険です。この一年間でクルマはだいぶ良くなり、今年乗ったメルセデス-AMG の信頼性を示すことができたと思います。またコントロールタイヤのブリヂストンとの組み合わせで安心して走ることができました。クラッシュは一度もなく、オーナーにも安心して乗ってもらえ、無事に一年間を走り終えられたというのは良かったと思います。将来的にまた S 耐にチャレンジできればと思っています。本当に一年間の応援ありがとうございました」





1シーズンを無事に走り切ることができましたことに、スポンサー・関係者の皆様に心より感謝申し上げます。皆様の温かいご支援とご声援に、改めまして深く御礼申し上げます。